

令和8年度 施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

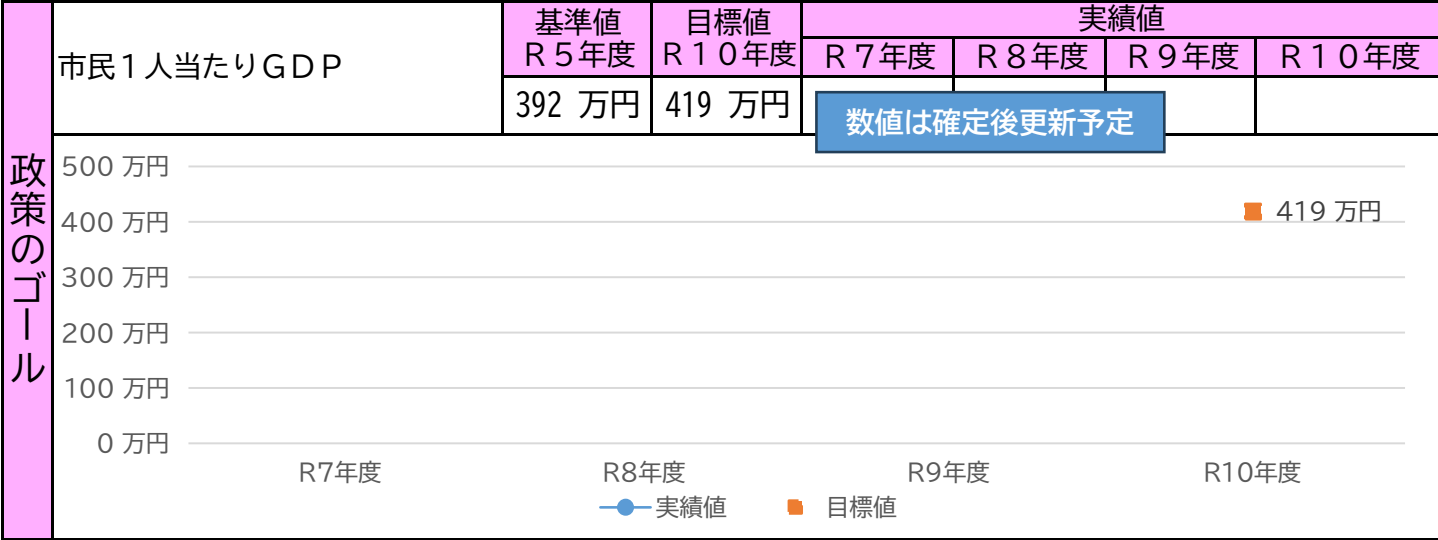
政 策 04 経済・観光 「ひと」と「しごと」に選ばれ、稼ぐまち

佐賀市の経済・観光がいつまでも発展するためには、多様な「ひと」や「企業」に選ばれ、多くのひとを引き付けるまちである必要があります。
佐賀市を選ぶひとを増やすために、一人ひとりの多様な価値観や生き方、可能性に光を当てて、「暮らしたい（働きたい）」、「訪れたい」、「応援したい」と思われるまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿《総合計画》

- 1 企業等は、事業活動を通じて、地域課題の解決や従業員の豊かな生活を実現しながら持続的に成長を続けている。
- 2 市民は、日常にある地域の魅力を内外に伝え、市を訪れた人は多様な観光体験を通じて、佐賀のファンになっている。
- 3 市民は、魅力ある都市機能が集まり、にぎわうまちなかで、平日・休日の両方を快適に過ごしている。

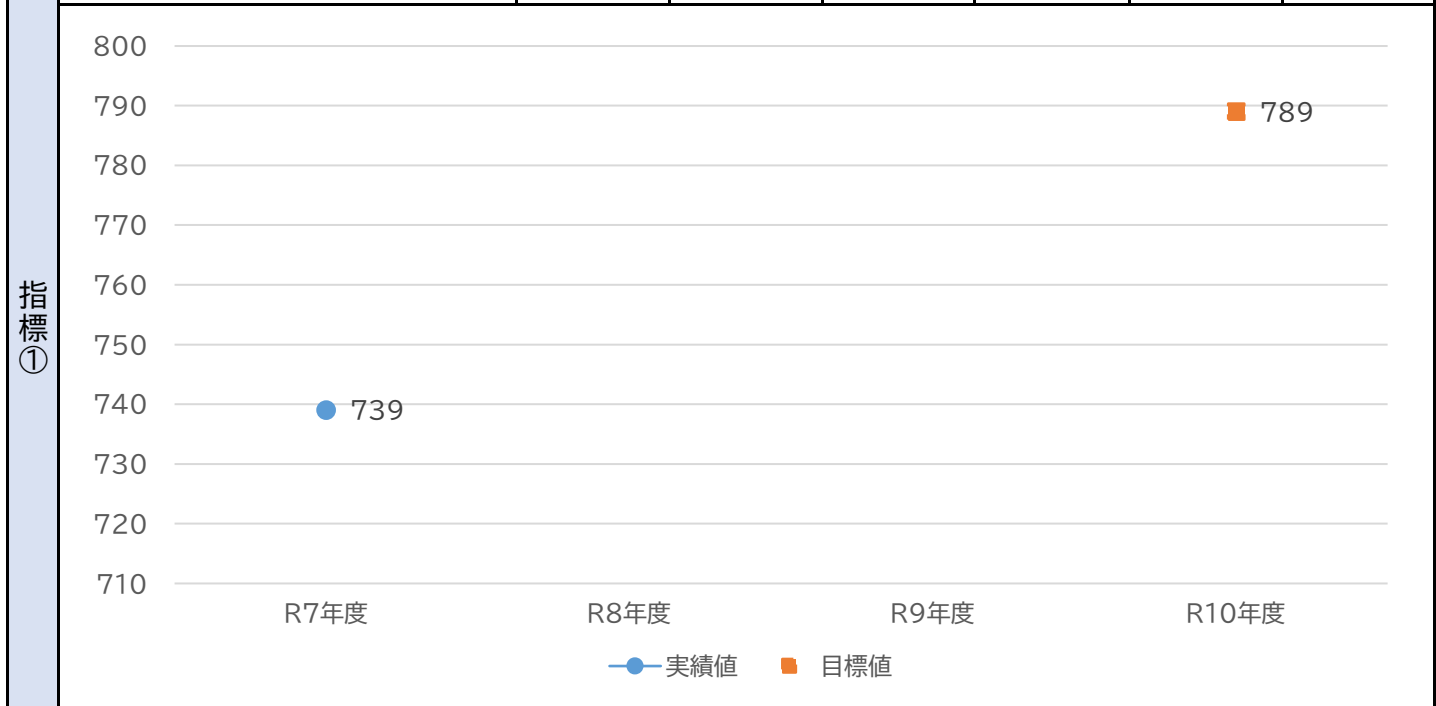
重点ポイント	目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ
・まちの稼ぐ力を高め、域際収支の改善を図ること ・働き方の選択肢を増やし、多様な人材を増やすこと ・佐賀らしい観光を磨き上げ、提供すること ・暮らす人・働く人も、イベントなどで訪れる人も、みんなが楽しく過ごせるまちなかであること	・人手不足や利益率向上に関する悩みや課題を抱えた企業が多く、人材と仕事のミスマッチ（人手不足、若者流出）が生じている。 ・経営を取り巻く環境の変化に対応できていない。 ・客層のターゲットが絞れておらず、モノやコトの魅力を伝えできていない。 ・まちなかに低未利用地が多く機能的な配置になっていないため、魅力が発揮できていない。



施 策	04-2 佐賀らしい観光の提供		施策統括責任課	観光振興課
関係課	観光振興課			
重点的に取り組む施策の方向性				
・佐賀市で暮らす人々が、ふだんからあたりまえに楽しんでいるすばらしいモノ・コトを観光資源としてとらえ、新しい観光のかたちを提供します。 ・地域の特性を生かしながら、観光資源を磨き上げ、佐賀らしい魅力を国内外に発信します。 ・観光の視点を、観光客数だけではなく稼ぐ観光を目指して取組を推進します。				
《総合評価》総括と今後の主な取組				
●施策の成果指標である宿泊者数は、円安効果と航空路線の回復が重なり、令和7年度の外国人宿泊者数は対前年比132%となった。一方で、物価高と国スポ開催に伴う宿泊者数増の反動減により、国内宿泊者数は対前年比93%となっている。国内外合わせた宿泊客数は約739,000人（対前年比97%）となっており、目標に向けて順調に推移している。 また、もう一つの成果指標である経済波及効果については、まず、令和7年度のパルーンフェスタの来場者数は約84万人となり、例年並みの水準を維持した。また、佐賀城下ひなまつりについては、人気絵本キャラクターとコラボした展示を行ったこともあり、過去最多の14万人が来場した。これらの実行委員会から発表された経済波及効果の合計は約106.8億円となり、目標に向けて順調に推移している。 重点的に取り組む事業では、「佐賀らしい観光の提供」として、熱気球など本市ならではの地域資源を活用した取組を実施し、市民の郷土への愛着醸成や本市の魅力発信を図った。また、観光入込客数と観光消費額がともに目標を上回っており、観光広報PR事業やMICEと連携した観光消費促進事業の効果が出ているものと考えられる。				
以上を踏まえ、今後の主な取組は次のとおりとする。 ・AI検索の普及など旅行者の情報収集行動が日々変化していることを踏まえ、SNS分析などを活用して来訪者ニーズを的確に把握し、ターゲットに応じた情報発信を行う。 ・イベント来場者の属性や人流データ等を分析し、来訪者ニーズに応じた宿泊助成やクーポン事業を実施する。また、観光施設や飲食店、宿泊事業者等との連携を強化し、来場者が市内を周遊し、宿泊・飲食・買い物を楽しめる環境の充実を図る。 ・柳町・松原エリアが有する歴史・文化資源を活用し、景観装飾、情報発信の強化などを通じて、年間を通じた来訪・滞在・回遊を促進することで、「市民も観光客も通年で歩き、集い、交流し、滞在できる“城下のにぎわい拠点”づくり」を進める。				
年度別 主な取組内容				
R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	
●小学生へのパルーンの係留体験搭乗 5,724千円（係留体験搭乗者数11,549人） ●ウェブサイト推定訪問者数 約35,000人 ●アンバサダー総フォロワー数818,586人、投稿数8336件（R7.12末） ●観光広報PR（雑誌掲載、TVCM等）16,908千円（30件） ●特別クーポンの発行 8,611千円（利用件数4974件） ●プロスポーツ観戦者向け宿泊助成 5,115千円（宿泊数387泊） ●観光周遊タクシー（つながるタクシー）への助成 3,916千円（利用件数245件）				

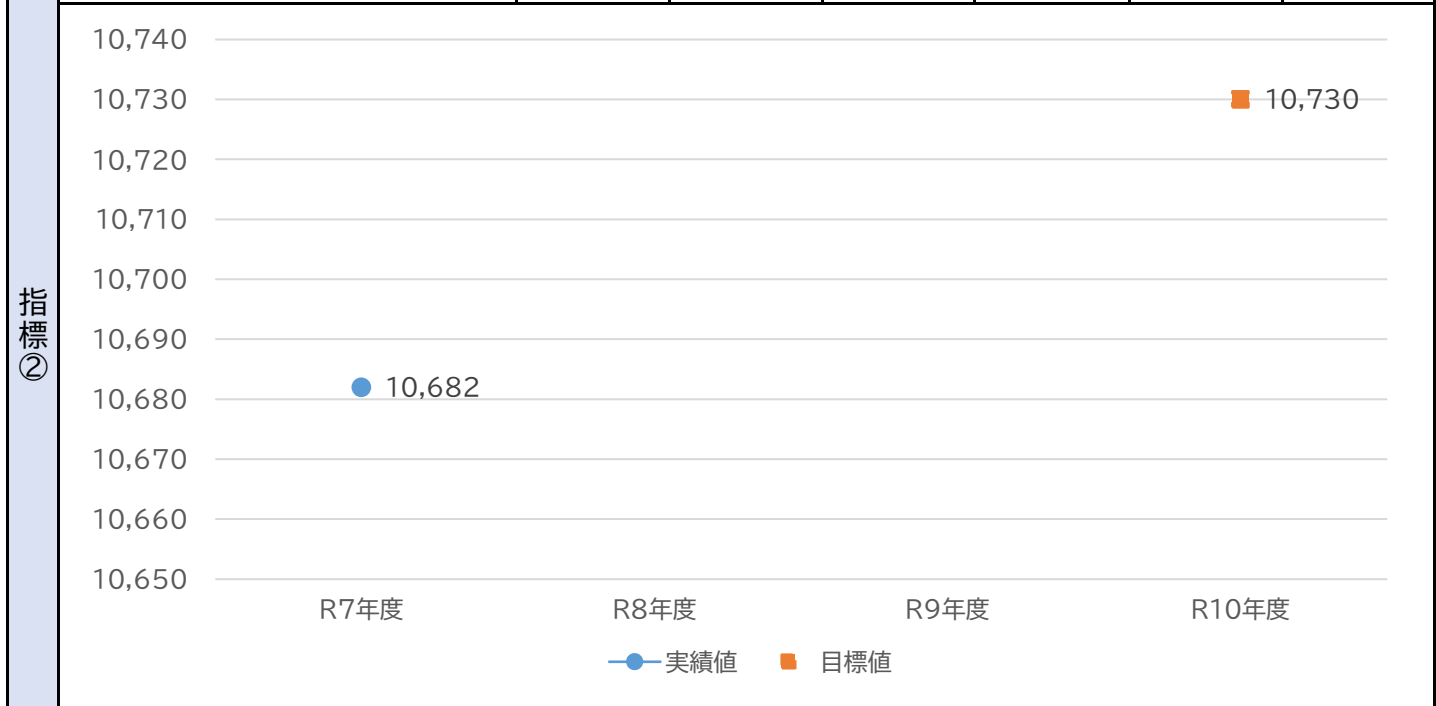
成果指標	
------	--

宿泊客数（国内、外国人）（千人）	基準値 R 5年度	目標値 R 1 0年度	実績値			
			R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 1 0年度
	677	789	739			

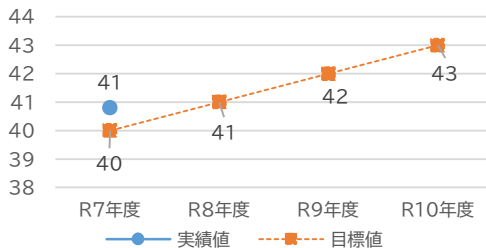


分析	円安と航空路線の回復が重なり、外国人宿泊者数は令和6年度から約23,900人増加（対前年比132%）した。一方で、物価高とコロナ特需の反動減により、国内の宿泊者数は令和6年度から約47,500人減少（対前年比93%）し、令和7年度は国内外合わせて、約23,600人減（対前年比97%）となった。
----	---

経済波及効果（バルーンフェスタ、ひなまつり）（百万円）	基準値	目標値	実績値			
	R 5年度	R 1 0年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 1 0年度
	10,144	10,730	10,682			



分析	令和7年度の佐賀インターナショナルバルーンフェスタは来場者数は例年並みの約84万人となった。また、令和7年度の佐賀城下ひなまつりにおいては、人気絵本のキャラクターとコラボした展示を行ったことで、子ども連れを中心に来場者数が増加し、過去最多の14万人となった。これらの実行委員会から発表された経済波及効果の合計は約106.8億円となった。
----	--

重点的に取り組む事業 ①									
佐賀らしい新しい観光の提供									
成果									
【バルーン係留搭乗体験事業】 - 市内の40校の小学校で熱気球の係留体験搭乗を実施。搭乗者数11,549名 - 子どもたちが実際に熱気球に触れ、空を飛ぶ体験を通して、バルーンを身近に感じるとともに、佐賀市ならではの地域資源への理解や愛着を深める機会となった。 【あたりまえ観光ウェブサイト制作】 「あたりまえ観光体験100」としてウェブサイトに体験記事を掲載し、本市の魅力発信と認知度向上を図った 【佐賀市公認観光アンバサダー（アンバサガー）による情報発信】 - SNS発信やイベント開催を通じて観光情報の発信力強化に取り組んだ。また、新たに市内在住外国人による国際アンバサガーを新たに任命し、外国人目線による情報発信に取り組んだ。									
問題点とその要因									
- バルーン係留搭乗体験は、天候の影響により、小学校7校において実施できなかった。また、一部天候の急変により球皮内体験やバーナー体験のみとなるケースもあった。 - 熱気球は安全運航を最優先とするため、天候に左右されやすいことが事業実施上の大きな課題となっている。 - ウェブサイトの制作や更新のみでは、観光情報を十分に届けることができていない。この要因としては、ウェブサイトそのものを知る機会が少なく、利用につながりにくい状況にあることが考えられる - アンバサダーについては、情報発信が一部のみに偏っている。この要因としては、継続して情報発信を行うアンバサダーが限られているためと考えられる。									
今後の取組方針									
- 令和7年度中にバルーン係留体験搭乗を実施できなかった7校については、改めて学校の意向を確認したうえで、全ての児童が係留搭乗を体験できるよう令和8年度に継続事業として取り組む。 - 今後も佐賀市ならではの特色ある教育・体験事業として継続し、多くの子どもたちが熱気球を通してふるさと「佐賀市」への愛着と誇りを育む機会を提供していく。 - ウェブサイトの制作から、誘客施策へと軸足を徐々に移行し、SNSやキャンペーン等を組み合わせながら、引き続き本市の魅力発信と誘客促進につなげる。 - アンバサダーとのコミュニケーションの場を増やし、発信しやすくなるよう、市側からの投稿テーマの提供やイベント開催を通じて、本市の魅力発信の強化につなげる。 - 国際アンバサダーに市内の紹介をすることでインバウンド向けの情報発信も強化する。									
主な重点取組事業									
1	事業名		価値ある体験提供事業						
	担当課		観光振興課		事業期間		令和7年度～令和10年度		
	事業概要・目的		「あたりまえハッピー」の事業の一環 - 市内の小学生全員を対象としてバルーンに搭乗という佐賀市ならではの体験を通した、ふるさと佐賀市への愛着の醸成 - ウェブサイト制作による本市の魅力発信と認知度向上 「アンバサガー」による情報発信強化						
	該当年度取組実績		- 小学生へのバルーンの係留体験搭乗の実施 11,549人 - ウェブサイト推定訪問者数 約35,000人 - アンバサガー 総フォロワー数818,586人、投稿数8336件						
	成果	指標	佐賀市を観光地として推奨できる市民の割合			単位	%		
		年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		目標値	40	41	42	43			
		実績値	41						
		達成状況	概ね達成している						
	決算額	年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		総事業費	21,431千円						
		うち市費	11,718千円						
			(※職員人件費は含まない)			(千円)			

重点的に取り組む事業 ②

柳町周辺エリアの活用

成果

(※「柳町賑わいづくり事業」は令和８年度からの事業であるため、令和７年度まで実施していた「歴史民俗館活用事業」の成果を記載)

【歴史民俗館活用事業】県立美術館で開催された売茶翁生誕350年特別展に合わせて、柳町一帯でイベントを実施した結果、期間中（10月～11月）の佐賀市歴史民俗館の入館者数は、令和6年度と比較して、約1,300人増加。また、柳町を年間を通して賑わうエリアへと育てるため、柳町の出店者や周辺の関係者と意見交換を行いながら、柳町エリアのコンセプトとロゴマークを作成。

[illegible]

【柳町賑わいづくり事業】例年10万人前後の来場者数がある佐賀城下ひなまつり期間中（2月中旬～3月中旬）以外の佐賀市歴史民俗館入館者数はコロナ禍以前から70,000人前後にとどまっている。

この要因としては、次の3つが考えられる。①佐賀城下ひなまつり開催中以外は、建物が単なる展示物になっており、日常的な活用が少ない。②エリア全体のコンセプトやストーリー性に欠け、認知度向上や誘客につながっていない。③各施設、事業者が独立して活動しており、集客や消費を促す横断的な取り組みができず、面的な魅力の創出ができていない。

今後の取組方針

【柳町賑わいづくり事業】 柳町・松原エリアの魅力に触れる機会を創出し、来訪者が滞在するためのイベントの主催者に対し、補助金を交付してイベント実施を支援する。また、柳町エリアへ訪れるお客様の動線上において、季節感や歴史的街並みに調和した装飾を実施し、回遊しやすい環境の形成を図る。あわせて、情報発信の専門家（アドバイザー）から助言を受けながら、装飾の様子を活用した写真や動画等のPR素材を制作し、SNS等で情報発信を行う。

主な重点取組事業	
----------	--

1

事業名		柳町賑わいづくり事業			
担当課		観光振興課		事業期間	令和 8 年度 ～ 令和 10 年度
事業概要・目的		柳町・松原エリアが持つ歴史・文化資源の魅力を引き出し、「市民も観光客も通年で歩き、集い、交流し、滞在できる“城下のにぎわい拠点”」としての価値を高める。その実現に向け、来訪動機の創出、滞在時間の延伸、回遊行動の増加を促進することで、人の流れと消費行動を生み出し、地場産業の付加価値向上と地域内経済循環の強化につなげる。			
該当年度取組実績		令和8年度から事業実施			
成果	指標	柳町エリア来訪者数			単位 人
	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
	目標値	—	77,788	79,788	82,288
	実績値	75,193			
	達成状況	概ね達成している			
決算額	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
	総事業費	—			
	うち市費	—			
(※職員人件費は含まない) (千円)					

年度	実績値	目標値
R7年度	75,193	0
R8年度		77,788
R9年度	79,788	79,788
R10年度		82,288

重点的に取り組む事業 ③

観光マーケティングの推進

成果

【観光広報PR事業】

- ・新聞や旅行雑誌、観光情報サイト、SNSなどを活用して佐賀市の観光やイベントの魅力を広く発信し、市外・県外からの誘客につながる情報発信を行った。
- ・公式SNSでは、投稿の閲覧数や「いいね」などの反応を分析し、多くの方に情報が届きやすい内容や発信方法へ改善を行うなど、データに基づいた効果的な観光PRに取り組んだ。

[illegible]

【観光広報PR事業】

SNSや動画配信サービス、旅行予約サイトに加え、AI検索の普及などにより、旅行者の情報収集手段や行動は大きく変化・多様化している。このような中、本市の観光資源やイベントの魅力を効果的に発信し、認知度の向上や来訪につなげるためには、デジタル媒体と紙媒体それぞれの特性や役割を踏まえ、ターゲットに応じた情報発信を行うことが求められている。

今後の取組方針

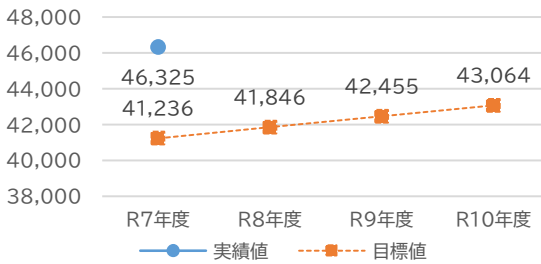
【観光広報PR事業】

- ・AI検索を含めた旅行者の情報収集行動の変化を踏まえ、人流データ分析やSNS分析などを活用して来訪者の属性や行動、ニーズを的確に把握するとともに、その分析結果を観光コンテンツの磨き上げやターゲットに応じた情報発信、プロモーション施策へ反映していく。
- ・また、発信内容や媒体ごとの効果検証を継続的にを行い、デジタル媒体と紙媒体を適切に組み合わせながら、認知度向上、来訪者数の増加及び観光消費の拡大につなげていく。

主な重点取組事業

1

事業名		観光広報PR事業					
担当課		観光振興課		事業期間	令和 7 年度 ～ 令和 10 年度		
事業概要・目的		人流データやSNS分析などの観光マーケティングを活用し、旅行者のニーズや行動を分析するとともに、その結果を観光資源の磨き上げやプロモーションに反映する。ターゲットに応じた効果的な情報発信を行うことで、本市の認知度向上や誘客促進、観光消費の拡大を図る。					
該当年度取組実績		・バルーンフェスタ 5件（駅装飾、テレビCM等） ・佐賀城下ひなまつり 7件（駅・バスセンター装飾、テレビCM等） ・その他佐賀市全体 18件（空港広告、雑誌掲載、イベント出展、コンテンツコラボの周遊マップ、古湯・熊の川温泉PR冊子の多言語版制作等）					
成果	指標	観光入込客数（年間）			単位	千人	
	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度		
	目標値	6,094	6,211	6,328	6,445		
	実績値	6,237					
	達成状況	達成している					
決算額	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度		
	総事業費	16,902千円					Web記事掲載 1泊2日のNEW佐賀市観光！ 歩いて、味わって、ときめいて。 “あたりまえハッピー”を探す旅へ
	うち市費	16,902千円					
	(※職員人件費は含まない) (千円)						

重点的に取り組む事業 ④									
MICE消費の拡大									
成果									
【MICEと連携した観光消費促進事業】 ・SAGAアリーナをはじめとする大規模イベントの来場者を対象に、市内飲食店等で利用できる特別クーポンの発行、宿泊助成及び観光周遊タクシー助成を実施した。 ・これらの取組により、イベント来場者の市内周遊を促進するとともに、宿泊・飲食・買い物などの観光消費を喚起し、イベントによる経済効果を中心市街地や市内観光地へ波及させることで、地域経済の消費拡大に取り組んだ。									
問題点とその要因									
【MICEと連携した観光消費促進事業】 イベント来場者を市内周遊や宿泊、飲食、買い物などの観光消費へ十分に結び付けられていない。この要因としては、宿泊助成や観光周遊タクシー助成は順調に利用され、取得したクーポンの利用率も71%となっているものの、クーポンそのものの取得数が低く、観光消費促進施策の活用が多くのイベント来場者への利用拡大に至っていないことが考えられる。									
今後の取組方針									
【MICEと連携した観光消費促進事業】 ・イベント来場者の属性や行動、人流データなどを分析し、来訪者ニーズに応じた観光消費促進施策を展開する。 ・宿泊助成など利用ニーズの高い取組は効果的な運用を継続するとともに、クーポン事業については利用状況や効果を検証し、より利用しやすく、消費拡大につながる制度へ見直しを進める。 ・観光施設や飲食店、宿泊事業者等との連携を強化し、イベント来場者が市内を周遊し、宿泊・飲食・買い物を楽しめる環境を充実させることで、地域全体への経済波及効果の向上を図っていく。									
主な重点取組事業									
1	事業名		MICEと連携した観光消費促進事業						
	担当課		観光振興課		事業期間		令和 7 年度 ～ 令和 10 年度		
	事業概要・目的		SAGAアリーナ等で行われるMICE等への来訪者をターゲットに、市内周遊及び宿泊の促進、観光消費の拡大のため、特別クーポンの発行、プロスポーツ観戦者向け宿泊助成、観光周遊タクシーの助成等						
	該当年度取組実績		・特別クーポン発行 利用件数4974件 ・プロスポーツ宿泊助成 宿泊数 387泊 ・観光周遊タクシー（つながるタクシー）助成 利用件数245件						
	成果	指標	観光消費額			単位	百万円		
		年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		目標値	41,236	41,846	42,455	43,064			
		実績値	46,325						
		達成状況	達成している						
	決算額	年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		総事業費	18,643千円						
		うち市費	0千円						
(※職員人件費は含まない)			(千円)						